

姫川の植物

姫川の下流（平野部）は、^{おんだんたい}温暖帯という気候帯に属し、^{じょうりよくこうようじゆ}シイ、カシの、常緑広葉樹によってつくられた林が見られるところです。なかでも、姫川のまわりではウラジロガシが多く、山本橋（河口から8.2km）より上流で、川に面した急斜面などに生えています。これに対し、水ぎわでは、ヤナギ類のまじった林や、水ぎわに生える、ヨシやツルヨシでおおわれた草原が見られるのが特徴です。姫川の河川敷は、^{かせんじき}出水による変化が激しい不安定なところなので、^{たけ}丈の高い林が見られることは少なくなっています。

姫川は、河口のあたりの砂地を除いて、小滝川との合流部あたりまでは、ほぼ同じ^{のぞ}植物群落（いくつかの植物がまとまって生育している一つの地域）が見られます。

現在の河川敷には、^{かせんじき}大小の石が転がった^{らち}裸地（植物の生育していない土地）が広がっています。洪水で、^{こうずい}裸地になった河原には、写真 - 2 に示すように、いろいろな植物の^{めば}芽生えがみられるようになります。

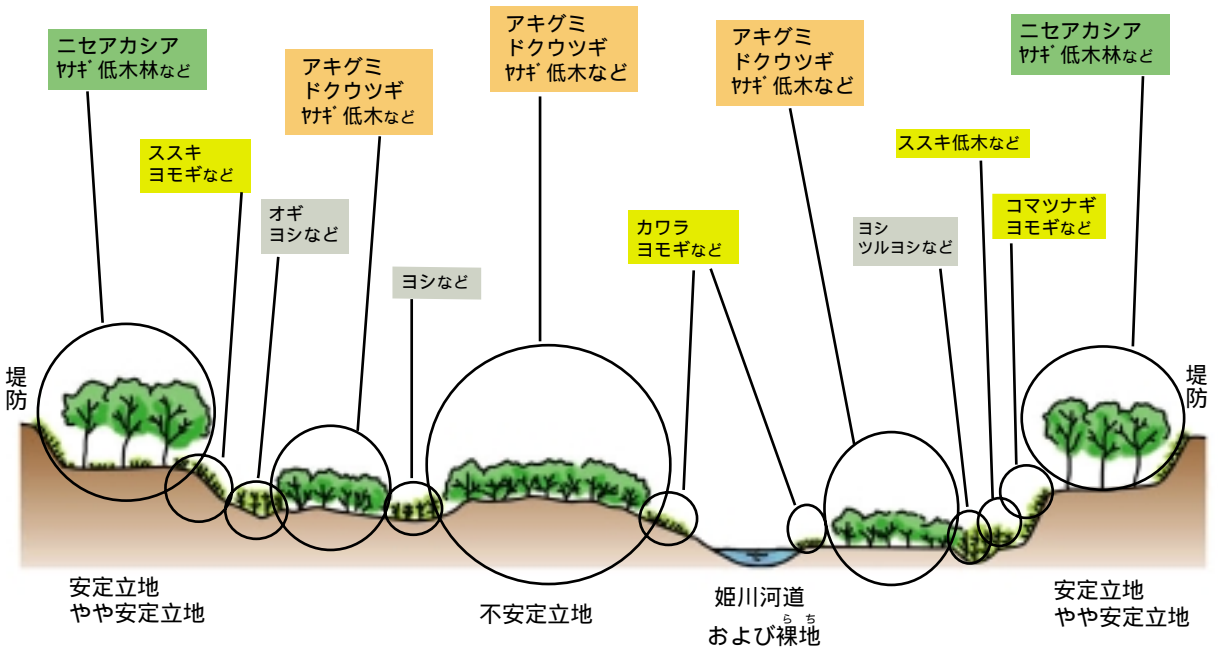


図 - 2 姫川の植物群落の横断模式図